

昨日と明日が  
交差する宿場の町は  
意気がいい。



あずまです。今日は弟の武司と一緒に、北千住を散策してきました。ここは「東京芸術センター」です。2階には個性的な映画館「シネマ プレスタジオ」、21～22階には最大400人を収容できる「天空劇場」があり、20階にはフレンチレストラン「タピルージュ」もあるんですよ。(MAPの①)

今回の登場人物



業平武司

業平家の長男であずまの弟。サッカーと鉄道を受する高校生。



業平あずま

業平家の長女。母親が経営する小学生向けの英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



東武スカイツリーラインの「北千住駅」。駅構内には飲食店・生活雑貨・書店などいろいろなお店があって、「エキナカ」も充実。東口を出てすぐの広大な敷地には、東京電機大学東京千住キャンパスが今春オープンしました。

北千住

(きたせんじゆ)

東武スカイツリーラインの「北千住駅」は、数多くの路線が接続するビッグターミナル。歴史的には、江戸と日光などを結ぶ街道筋の要所「千住宿」として大いに栄えましたが、その賑わいが今もなお続いている面白い町です。最近様々な大学のキャンパスが建設され、明日へと向かう新しい一面も注目されています。秋の一日。私たちもまた、この過去と未来が交差する町で、散策を楽しんでみましょうか。きつと刺激を受けて元氣になりますよ。





「学びピア21（足立区中央図書館・生涯学習センター）」です。4階には「足立区荒川ビジットセンター」があり、荒川をもっと知りたい人にお薦め。自然体験や川あるま、といったイベントも数多く開催しています。（MAPの㉔）



お休み処「千住 街の駅」で散策マップをいただき、宿場町通り（旧日光街道）を歩きます。ここは「横山家住宅」。江戸時代後期の造りを残す商家で、<sup>おぼろ</sup>「庄」の柱には官軍と戦った彰義隊士がつけたという刀の傷跡も（見学は外観のみ）。（MAPの㉕）



猫雑貨専門店「ねこだん」というお店を発見。人も猫も喜び、雑貨が1階と2階の店内にずらり。武司は猫を飼っているガールフレンドのお土産に、線香状のマタビをゲット。私は可愛い猫のデザインの傘を買いました。（MAPの㉖）



「学びピア21」の目の前には荒川が流れています。野球やサッカー、サイクリングを楽しむ人たちがいっぱいです。10月13日（土）には、この荒川河川敷で「第34回 足立の花火」が開催されますよ（18:00～19:10）。（MAPの㉗）

一方、同じ旧日光街道の南側、本町センター商店街と名付けられた通りは、日常的な活気あふれる商店街です。食欲の秋にふさわしい、おいしいそうなお惣菜や飲食店がいっぱい。そもそも北千住は、グルメスポットが多いことでも注目です。その理由を探したい人は、千住大橋近くの「やっちゃ場（青果市場）跡」まで足を延ばしましょう。幕府公認だった市場は江戸庶民の食文化を支えたため、人波は街道を埋めつくすほどだったとか。今、市場そのものは姿を消しましたが、それでもかつて問屋や商店だった家々は、昔風の木の看板をかがげ、興味深い風景をそえています。

中でも当時の情緒が漂うのは、現在、宿場町通りと呼ばれている荒川土手寄りの界隈。諸大名ご宿泊の本陣をはじめ、55軒もの旅籠が軒を連ねたという賑わいは掲示板からも伝わります。町並みには、江戸後期の商家「横山家住宅」がさり気なく保存されていたり、伝統的な縁起物・千住絵馬を作り続ける「吉田家」を見つけたり、歴史の道は奥が深い。その意味では「千住 街の駅」を訪ねてみるといいでしょう。ここはレトロな商店を改造した観光案内所。町歩きマップや情報が入手でき、親切なお休み処でもあります。

北千住駅の西口から国道4号線（現・日光街道）へと向かう大通り。その中程を横切って、南北へ一直線に延びるのが「旧日光街道」です。江戸幕府によって開かれた五街道のひとつですが、千住では荒川から隅田川まで続き、この街道沿いを起点に、町も文化も繁栄してきました。

## 旧日光街道沿いで「おいしい秋」を発見。





東京芸術センター20階にある「タピルージュ」。赤い絨毯という名前どおりの内装。本格的なフレンチのコース料理がランチなら1900円から楽しめます。窓からは東京スカイツリー®の姿がくっきりと見えましたよ。(MAPの(A))



朱色の山門から「赤門寺」とも呼ばれる「勝専寺」です。赤レンガの塀も、とってもユニーク。江戸時代には、将軍が鷹狩りする際の休息所にもなっていたそうです。1月と7月の閻魔開きの縁日にはかなり賑わうとか。(MAPの(F))



「千住宿珈琲物語」で休み。とても落ち着いた雰囲気、店内です。有田焼などの陶器でいただくコーヒーで優雅な気分。自家焙煎のコーヒーは約20種類。物語ブレンド550円、マイルドブレンド500円ほか。

(MAPの(G))



東京芸術センターの2階にあった「黒澤明アカデミー」。黒澤作品以外にも、映画のさまざまな資料を閲覧することができました。隣には意欲的な映画の特集を行う映画館「シネマブルースタジオ」がありました。(MAPの(A))

これらもまた新しい、「おいしい時間」の発見です。

そしてこの散策を彩って、東京芸術センター20階のレストラン「タピルージュ」で食事というアイデアはいかが。本格フランス料理を賞味しながら、あの「東京スカイツリー®」まで望める！

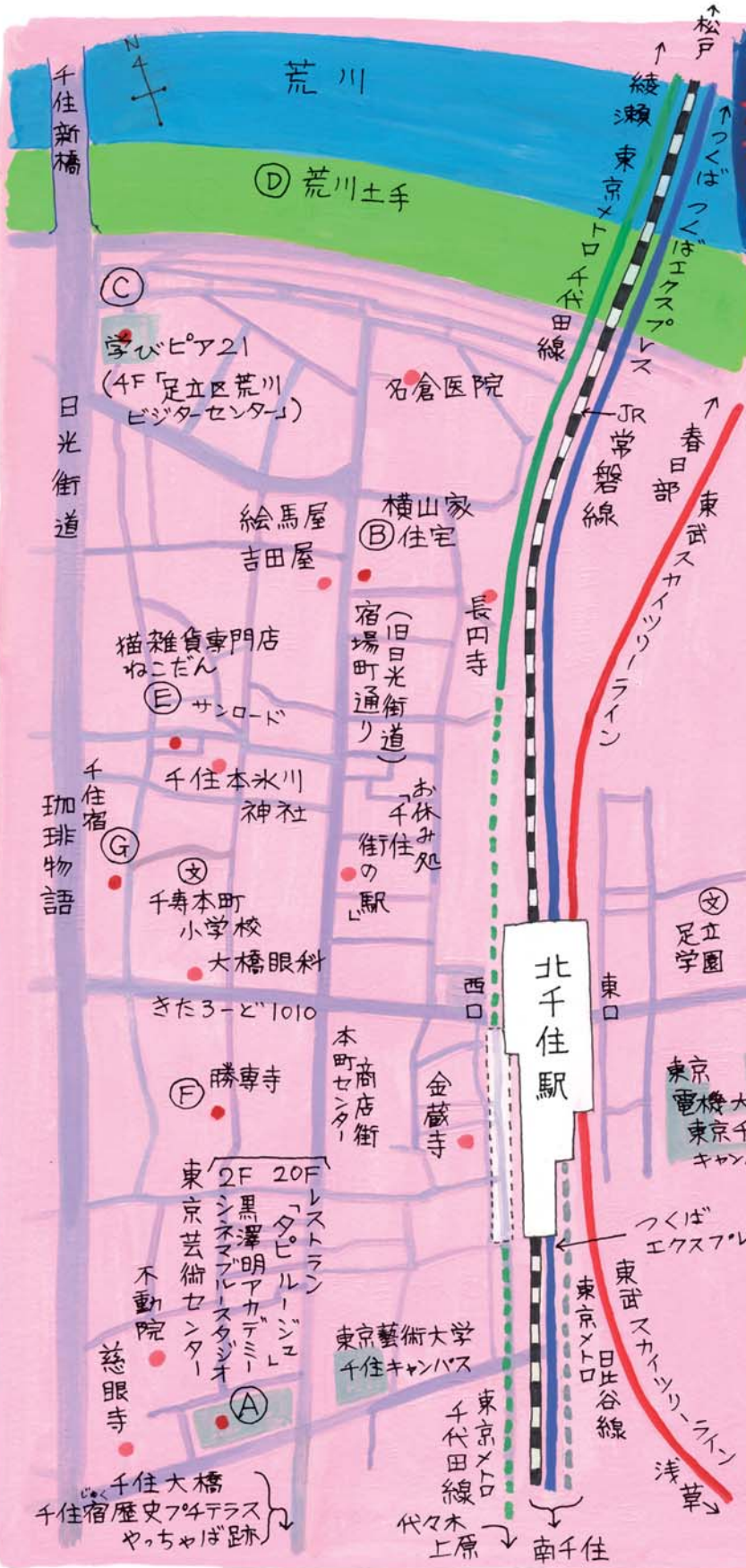
「千住宿 珈琲物語」で休み。とても落ち着いた雰囲気、店内です。有田焼などの陶器でいただくコーヒーで優雅な気分。自家焙煎のコーヒーは約20種類。物語ブレンド550円、マイルドブレンド500円ほか。

賑わいの町は、新しい文化活動に熱心な土地柄。演劇を中心とした舞台芸術を上演する「シアター1010」をはじめ、面白いところでは、荒川の自然に触れて考える「足立区荒川ビジターセンター」や、ギャラリーとしても開放されている「千住宿歴史ブチテラス」などが、あちこちに点在しています。また次代を見据えた「東京芸術センター」には、意欲的な企画映画館「シネマブルースタジオ」があり、それに隣接して、同じ2階にはあの黒澤明監督へのオマージュを込め開設された「黒澤明アカデミー」まである充実ぶりですから、映画ファン必見です。

千住宿探訪のポイントは、街道沿いの路地にさえ由緒ある古刹や史跡が隠れていることです。「赤門寺」の名で親しまれる「勝専寺」もその一例。千住で最も古い寺院とされますが、閉ざされた赤門と境内の奥には、木造の千手観音立像（未公開）が祀られているそうで、この「千手」が地名「千住」の由来になったという説もあります。こうした良き古さと同時に、新しい動きが生まれているのも、千住。東口に今年、キャンパスを開設した「東京電機大学」を加え、「東京芸術大学」や「帝京科学大学」「東京未来大学」が集まり、学園都市らしい表情も整い始めました。

学園街としての新しい表情も見逃せない。





足立の花火  
10月13日(土) 18:00~19:10

- 北千住データファイル**  
 (お休み処 千住 街の駅) ●●交通 = 北千住駅徒歩3分 ●開館時間 = 9:00~18:00(11月~3月は~17:00) ●休館日 = 月・火曜(祝日、1/1~1/3を除く)、12/29~12/31 ☎03-3880-5853
- 〈東京芸術センター〉●●交通 = 北千住駅徒歩7分 ●黒澤明アカデミー(2階) = 11:00~18:00、日・月・祝休み、閲覧無料、コーヒー300円 ●本格スタジオ型映画館「シネマ ブルースタジオ」(2階) = 次回特集上映は11月中旬から ☎0570-01-0161
- 〈足立区荒川ビジターセンター〉●●交通 = 北千住駅徒歩15分 ●開館時間 = 9:00~21:30(解説員常駐は17:00まで) ●休館日 = 原則として第2月曜(祝日の場合は第3月曜)、12/28~1/4 ●入館料 = 無料 ☎03-5813-3753
- 〈猫雑貨専門店 ねこだん〉●●交通 = 北千住駅徒歩8分 ●営業時間 = 11:00~19:00 ●定休日 = 第2・4火曜 ☎03-5284-7163
- 〈レストラン タピルージュ〉●●交通 = 北千住駅徒歩7分 ●営業時間 = 11:30~14:30(L.O.13:30)、17:30~22:00(L.O.21:00) ●定休日 = 月曜 ☎03-5284-1590
- 〈千住宿 珈琲物語〉●●交通 = 北千住駅徒歩6分 ●営業時間 = 8:00~20:00(日・祭日は9:00~) ●定休日 = 火曜 ☎03-3882-5524



東京電機大学  
東京千住キャンパス